

平成 28 年度第 6 回 沖縄県がん診療連携協議会・緩和ケア部会議事要旨

日時：平成 29 年 3 月 30 日（木）19：05～21：50

場所：琉大病院がんセンター

参加者 13 名：笹良剛史、新屋洋平、足立源樹、垣花真紀子（Skype）、笠原大吾、尾崎信弘、大湾勤子、中村清哉、多和田慎子、親泊美香、島袋恭子、友利健彦、増田昌人
欠席者 7 名：喜納美津男、栗山登至、崎枝久美、野里栄治、川田聡、伊藤昌徳、福地泉、
陪席者 3 名：新里誠一郎、佐久川卓、山口元子

< 報告事項 >

1. 平成 28 年度第 5 回緩和ケア部会議事要旨について

資料 1 に基づき、笹良部会長より平成 28 年度第 5 回緩和ケア部会議事要旨の報告があった。

2. 緩和ケア研修会修了報告について

資料 2 に基づき、新屋副部会長より県立宮古病院主催緩和ケア研修会修了報告があった。

3. 「平成 28 年度 都道府県がん診療連携拠点病院 PDCA サイクルフォーラム」について

資料 3 に基づき、増田委員より平成 28 年度 都道府県がん診療連携拠点病院 PDCA サイクルフォーラムについて報告があった。

4. 「平成28年度 地域における緩和ケアチーム研修企画・実施にかかる指導者養成研修」について

資料 4 に基づき、新屋副部会長より平成 28 年度 地域における緩和ケアチーム研修企画・実施にかかる指導者養成研修について報告があった。

5. 緩和ケアフォローアップ研修会について

資料 5 に基づき、新屋副部会長より緩和ケアフォローアップ研修会について報告があった。

6. 琉大 ACP の取り組みについて

中村副部会長より琉大病院におけるアドバンスケアプランニングの現状について報告があった。

< 協議事項 >

1. 痛みのスクリーニングと結果のフィードバック及び主治医（チーム）の行動変容について

多和田委員より琉大病院の状況について報告があった。青森中央病院の山下看護師が来院した際、がん患者の母数が分からないので実施率が出せない状況であり、研究としてデータを使えないのでは、データをまとめる事務員がいないと難しいのではとの指摘を受けた。各病棟のカンファレンス時にリストアップされた患者に関して討議するようしており、除痛率は昨年度より 2%上がり 66～67%である。2 月から外来でスクリーニングのテンプレートの試験運用を開始している。テンプレートを開けば連絡先が分かるようしており、多いのは主治医、続いて緩和ケアセンターやがん相談支援センター、ピアサポーターにつなげていることが記録に残っているとのことだった。

笹良部会長より南部病院及び豊見城中央病院の状況について報告があった。昨年10月から準備をして外来でiPodでのスクリーニングを導入した。受付で看護助手に問診をしつつiPodに入力してもらい、紙が主治医に行く。主治医がチェックした結果をMAが入力して記録を残すという仕組みでうまく行っている。スクリーニングを行うスタッフへのフィードバックをどう行うかが今後の課題である。病棟のスクリーニング結果は緩和ケアチームでは共有されていたが、主治医にはあまりフィードバックされていなかったの紙で出すようにした。入院患者の中のがん患者は2~30人で、その中で困っている人は3、4人いるが、ほとんどは主治医からすでに緩和ケアチームに依頼があるケースで、フィードバックを掛けるまでもない状況なので紙で返していない。紙でのフィードバックは付加的価値を付けないと難しく、渡し方と共に今後の課題である。実施率は7割程度であるとのことだった。

足立委員より那覇市立病院の状況について報告があった。前回部会で報告した内容とほとんど変化がない。外来はまずは外科でスクリーニングを行い内科も始める予定だったがまだ実施できていない。フィードバックについて、病棟では紙を印刷して病棟師長に渡しそれをカンファレンスで使用し、師長の裁量で医師との話で使っているようである。問題のある症例は緩和ケアチームミーティングに上がっているとのことだった。

新屋副部会長より県立中部病院の状況について報告があった。病棟について、がん診療を行う病棟でテンプレートを運用している。フィードバックを誰が行うかが問題となっている。自主的に行っている師長もいるのだが把握できていない。外来では外科は看護師が問診時にテンプレートへ入力し、主治医への声掛けも行っている。内科はできていないとのことだった。

陪席の新里先生より、浦添総合病院は実施していないとのことだった。

友利委員より、沖縄赤十字病院は実施していないとのことだった。

2. 平成29年度の緩和ケア研修会について

資料6に基づき、増田委員より拠点病院の緩和ケア研修会の受講状況について情報共有が行われた。

(1) 日程調整

資料7に基づき、緩和ケア研修会の日程調整が行われた。沖縄病院は7月8日、9日開催、浦添総合病院は10月か11月に開催、琉大病院は浦添総合病院の後、11月下旬か12月上旬に2回目を開催、豊見城中央病院は11月以外でリレーフォーライフを避けて開催、沖縄赤十字病院と県立八重山病院は今年開催しない、県立宮古病院は開催したいが具体化はしていないとのことだった。また、がん診療に携わる医師の受講率を上げるため、定員が一杯になった場合県立中部病院主催の第3回まではコメディカルの参加はお断りすることになった。

(2) 講義内容について

資料8に基づき、緩和ケア研修会の講義内容について、選択できる講義として去年は統一して倦怠感を行ったが、今年はどうするか協議が行われた。新屋副部会長より医科歯科連携を入れたいとのことで、笹良部会長より足す分には主催者判断で可能ではとのことだった。議論の結果、必須項目を調べてたたき台を出し、それに委員が意見することになった。次回の緩和ケア部会に患者をお呼びしてがん患者の声を取り入れるための合同検討会議に充当することにした。

3. 施設相互訪問について

笹良部会長より施設相互訪問について提議があり、次回以降検討していく事になった。

4. 沖縄県緩和ケアチーム研修について

資料9に基づき、新屋副部会長より説明があった。県内の緩和ケアチームを対象とした事前アンケート

トを分析すると、施設によって規模や活動内容に大きな差があり、お互いに何をしているか分からないのが現状である。まず相互に顔の見える関係を構築して支援し合えるような関係を築くのが必要ではないかという結論に至った。対象者は県内の病院に勤務する緩和ケアチーム所属の医療従事者とし、研修の実施主体は緩和ケア部会、予算は琉大病院が持つことになった。委員より半日に短縮してはどうかとの指摘があり、離島など遠方からの参加も考慮して半日開催とし、内容を再度練り直して検討することになった。日程は6月、7月、9月のいずれかで、コアメンバーの予定と会場の都合によって決めることになった。

5. 平成28年度事業計画について

平成29年度事業計画について、部会長と事務局でたたき台を出し、次回の部会で検討することになった。

6. 次回部会開催日程について

次回の緩和ケア部会は6月開催とし、メールで日程調整をすることになった。

7. その他

親泊委員より、委員交代となる旨挨拶があった。また、島袋委員より相談支援部会へ移動となる旨挨拶があった。垣花委員より、異動に伴い委員交代となる旨挨拶があった。

笹良部会長より、九州緩和ケア研究会 第2回学術集会について報告があり、次回は佐賀開催とのことだった。